

多摩市青少年問題協議会
令和元年度 第2回青少年健全育成委員会 議事録

- ◆日 時 令和元年7月25日(木) 午後7時～午後9時
- ◆場 所 西第1, 2会議室
- ◆欠席委員 川井委員、広田委員(2名)
- ◆議 題
 - 1 「ともに楽しむ」「ともに学ぶ」とはどのようなことか
その共通イメージについて

1 「ともに楽しむ」「ともに学ぶ」とはどのようなことか

その共通イメージについて

<議長> 「ともに楽しむ」「ともに学ぶ」ということはどういうイメージかということを通認識していきたい。まずは「ともに学ぶ」について皆さんの意見を伺いたい。

◎ ともに学ぶ

- 最近の子どもは生活体験が乏しいので大人から子どもへ工作を教える中で、ともに学んでいく。
- 防災訓練の中で地区委員や自治会員の方から様々な体験を通して学んでいく(小学生対象)。
- 農家の方の協力をもらい、肥料の撒き方、植え方を学習しながら収穫を楽しみにして畑を耕す(中学生対象)。
- かるがも館には勉強スペースがあり、一人ひとりが勉強をしている。地域の大人が子供たちに勉強を教えてくれるのが理想。
- 親子でスポーツを通して学ぶ。
- ニュースを通して知らない人と触れ合える。
- こころのつながりと人とのつながりを持つことが大事。
- コミュニケーション能力の力が落ちてきている。
キャンプの班別活動を通して子供たちにコミュニケーション能力を高めることができる。
- リーダーがどうしたらできるかを一緒に考える 答えは教えない。
- リーダー自身がじぶんたちも精一杯楽しむことが大事。
- 教えることは学ぶこと。
- 人との出会いとつながり。
- 災害ボランティア体験 親子の参加が多く、勉強になり、楽しくもあった。

防災関係の行事は学びあいの場として有効である。

- 屋台を出す お店を企画し、お客さんと触れ合う。
人と人とのつながり、コミュニケーションの活発化。
- 食をともにする。
- 子供たちが自分たちで計画したものを大人がサポートする。キャンプ 模擬店等。
- 自分の地域を大人と子供が一緒になってパトロールをする。自分の地域を大事にする心を育てる。
- 歴史、地理、文化、生活を一緒に学ぶ。
どんど焼き 無病息災を願い、お正月のお飾り等を焚き上げる。
- 農業を親子で体験するのも良いのでは。
- 最近の若い人の特徴として、個人としての能力は高いが、集団で動く場合に、役割分担のない間をつなぐ人がいない傾向が強い。
地域で知らない人同士と一緒に活動することは現代の子どもたちの足りない能力を補っているのでは。
- マニュアルがあってその通りに動くのではなく、自分で考えて行動する力を身につけることが大事である。

◎ とともに楽しむ

- 青少協では、スポーツ大会、キャンプ、多摩そば作りなど体験を踏まえて親子で楽しむ体験型の行事を組み立てるのが現状である
- 盆おどりをみんなで学ぶ機会があった。楽しみながら、踊りを覚える良い機会であり、子どもがいれば、さらに盛り上がり、子どもと大人が一緒に楽しむことができたろう。
- 「ともに」は誰をさすのか。親子をさすのか。
親子だけでなく、いろいろな「ともに」があるのでは。
- 自己肯定感の低い子が多い。ボランティアや地域の行事に参加することで自分の手で作り上げ、達成感をもつことは大事である。
- 今の子供たちは屋内での活動が多い。活力のある子どもが少ない。地域の場があることで子供たちが活躍できると良い。
- 保護司の立場で、子どもたちの話によく耳を傾けると、小学生中学年の頃から孤立が始まっている。親から見放され、学校や友達からも見放されている。何かをやって、注目されたい、目立ちたいという気持ちが強くなる。そういう子たちが仲間を作り、法律を犯してしまうという流れがあるのではないか。
人とのつながりを構築していくことが大事である。
- 学校だけでは子どもは育たない。家の中では家庭教育が必要であり、ただ子どもはそれだけでは育たない。地域の教育力が必要である。その地域の教育力が今力を失っている。PTAも出てきているより出てこない親の方が問題である。こうした親を一人でも多く地域に引きずり出すことが大事である。子どもが活躍する場を地域で提供することができれば、それに引きずら

れて大人たちを地域に引っ張りだすことができる。

「ともに」というのは子どもから大人まで地域の人すべてを指すと考えた方が良い。

- 今紙媒体の情報を見ない親が増えている。周知のやり方が重要なポイントとなる。
地域によって特色がある行事をしている。
防災備蓄を家庭で考えて用意するという取組をP T Aで行って見たことがある。
大人が知恵を絞って楽しみながら、子どもと大人がともに学ぶことができた。
- 同じ場所で、同じ空間、同じ時間を過ごし、みんなで活動することで一緒に達成感を感じることが大事である。
- スポーツは楽しく、様々な記録会を行うのはおもしろいのではないか。